

## 「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



春の壁面装飾「お母さんちょうちつともむし」

## 2026年度を迎えて

春の陽光に照らされ、病院周辺の桜が一斉に花開く季節となりました。やわらかな風に花びらが舞い、長い冬を越えて訪れたこの鮮やかな景色は、新たな年度の始まりと未来への希望を力強く感じさせるとともに、地域の皆さまの健康と暮らしを支える責任の重さを、あらためて胸に刻ませてくれます。

当院は福井県最北部の地で、重症心身障がい児(者)医療、神経・筋疾患、血液・リウマチ疾患、そして心不全・感染症・悪液質などの長寿医療に至るまで、多岐にわたる領域を担い地域医療を支えてまいりました。近年、医療を取り巻く環境は大きく変化し、決して容易な状況ばかりではありませんが、国立病院機構としての使命を胸に、今後も政策医療と地域医療の双方を確実に担い続ける覚悟です。

「多くの人の笑顔のために」という当院の基本方針のもと、地域の皆さまが安心して暮らせるよう、職員一人ひとりが専門性と責任を発揮し、多職種が連携して安全で質の高い医療・看護・介護の提供に努めてまいります。今後とも、地域の皆さまの温かいご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。



院長  
見附 保彦

## 重症心身障害児（者）医療の特徴

診療部長 川満 徹

当院では小児科医3人が主に主治医となって当院の重症心身障害児（者）の方達の診療に当たっています。当院の現在の入所者の平均年齢は50才近くで、18歳未満の児童は6人しかいません。なのに何故小児科医が主治医?と疑問に思われるかもしれませんが、この傾向は当院だけではなく、全国の入所施設でも同様の状況にある様です。

理由は幾つかあると思いますが、小児科医は元々自分の症状を正確に訴える事が出来ない小さな子供たちの診療

に慣れているので、同様に言葉での表現が難しい重症心身障害児者の診療にそれ程違和感を感じずに診療が出来るという事もその理由の一つかもしれません。それだけに、患者さんから発せられる微かなサインを出来るだけ正確に読み取って、的確な診療に当たる事が重要と言えるでしょう。



## 神経難病患者さんの看護

4階病棟看護師長 岡村 真奈美

当院には、筋ジストロフィーや筋萎縮性側索硬化症などの神経難病を抱える患者さんが入院されています。

私たちは、表情や筋緊張の微細な変化から、患者さんの「言葉にならない想い」を丁寧に汲み取る関わりを大切にしています。また、自力での呼吸や言語による会話が困難となる中



で、文字盤や視線入力などのICT機器を用いたコミュニケーションを支援しています。

現場では熟練看護師と若手看護師が組み「ペアでのケア」を実践しています。安全な移乗や体位変換など、熟練看護師が持つ知識や看護技術、そして細やかな観察の視点を日常の介助を通じて若手看護師へ伝承しています。患者さんが歩んできた人生を尊重し、「その人らしく」療養生活を送れるよう、看護を実践していきます。

## 一時救命処置（BLS）研修

医療安全管理係長 細坪 美貴

当院では毎年、全職員を対象とした「BLS研修」を開催しています。

BLSとは、心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置のことです。正しい知識と適切な処置の方法さえ知っていれば誰でも行うことができます。病院内で医師や看護師が近くにいないところで急変が起こった時、正しく一時救命処置を開始できることを目標に、今年は病院受付やリハビリ室など、それぞれの部署に出張し研修を行いました。意識の無い方を見つけたら、「周囲の安全確認」、「反応がなければ応

援を呼ぶ」、「正常な呼吸がなければ胸骨圧迫を開始」することを講義で説明後、演習をしました。毎年実施しているため、胸骨圧迫のスキルはかなり上達し、メンバーで声を掛け合いながら演習できました。参加者からは「イメージしやすかった」「質問しやすかった」などの感想をいただきました。

これからもBLS研修を継続し、患者さん、地域のみなさんの安心・安全を守ります。



## 遠隔読影

診療放射線技師長 宮本 真也

当院はCTやMRIなどの高性能な医療機器を備えており、頭部や腹部をはじめ体内の状態を鮮明に撮影することが可能です。しかし、画像を撮影するだけでは診断はできず、そこから異常や病変を見つけ出すには、医師による専門的な読影が不可欠です。この画像診断を専門に行うのが画像診断医です。

当院には常勤の画像診断医は在籍していませんが、専用ネットワーク回線を



活用した遠隔画像診断システムを導入しています。院内で撮影した画像を画像診断センターへ送信し、経験豊富な画像診断医が読影・所見を作成し、その結果が1時間以内に当院へ返送されます。これにより、専門医による的確な診断が可能となり、地域の皆さまに質の高い医療を提供するとともに、疾病の早期発見・早期治療に役立っています。

ご不明な点がございましたら、放射線科スタッフまでお気軽にお尋ねください。



## 地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

## 医療法人 聖仁会 藤井医院

1953年の開院以来、古き良き三国湊の街並みに溶け込む町屋風の医院として、70年以上地域に根ざした診療を続けてまいりました。2022年4月より家庭医療専門医である藤井雅広が三代目院長に就任し、外科を担当する二代目・藤井康広と共に診療にあたっています。

「家庭医療」とは、赤ちゃんからご高齢の方まで、年齢や臓器の枠にとらわれず生活環境や家族の背景にも配慮しながら包括的に診療を行なう医療です。検査はレントゲンや心電図、超音波、内視鏡、CTなどが実施可能であり、専門的な治療が必要な際は速やかに連携病院へお繋ぎいたします。

さらに当院は「FJメディケアグループ」の母体として、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、ケアハウスなどの介護・福祉施設とも密に連携しており、医療と介護の両面から切れ目のない支援が可能です。「体調が悪いけれど、何科にかかればいいのか分からない」という不安も、まずはお気軽にご相談ください。かかりつけ医として「来てよかった」と思える誠実な医療で、皆様の健康を末長く見守ってまいります。これからもよろしくお願いたします。

院長 藤井 雅広

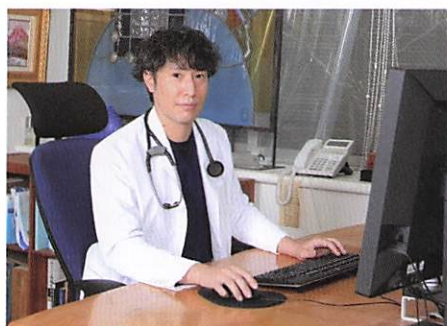
〒913-0045

福井県坂井市三国町南本町3-3-20

TEL:(0776) 82-1113

休診日:金・土曜午後、日曜、祝日

HPこちらから▶



## 地域医療連携室だより

地域医療連携室 退院支援看護師 福嶋 志保子

地域医療連携室の入退院支援部門では、患者さんが安心して入院生活を送り、退院後も住み慣れた地域でその人らしい暮らしを続けられるように支援しています。特に受診時に入院が決まった患者さんにはその段階からご不安やご心配事を丁寧に伺い入院生活の説明を行います。また現在利用されている訪問看護や訪問介護などサービスの状況も確認しながら退院後の生活を見据え計画を立案し支援を開始しています。その際、退院支援看護師のみならず、薬剤師、管理栄養士も一緒にお話をお伺いし院内の多職種が早期からそれぞれの専門性を活かして関わり、患者さんとご家族をサポートできるよう努めています。

また入院中は、必要に応じて地域の医療機関や介護保険事業所、行政などとも話し合いを進めます。退院後

に安心して在宅等でのサービスが受けられるよう調整いたします。単に環境を整えるだけでなく、患者さんの思いを一番大切に希望に寄り添い、住み慣れた地域でのその方らしい生活が実現できるように援助しています。

入退院支援の強化を通じて退院後の不安軽減や再入院予防につなげ、地域の皆さんに信頼される医療の提供を目指してまいります。



外来担当医表

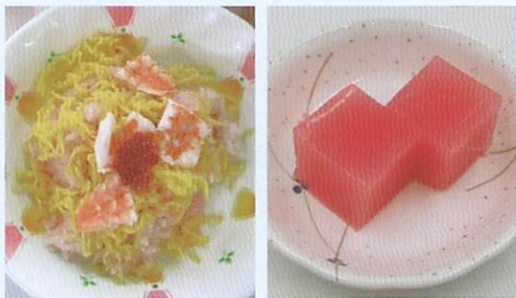
(令和8年4月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	青山 大雪	辻 俊比古	大槻 希美	浦崎 芳正	田中 周
	小児科	川崎 亜希子* (15:30~)川満 徹*	川満 徹*	川崎 亜希子* (15:30~)川満 徹*	川満 徹*	川崎 亜希子* (15:30~)川満 徹*
専門	リウマチ		津谷 寛		津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正*		大槻 希美 (第2・4)
	生活習慣病			桐場 千代 (第2・4)		伊藤 和広
	老年					栗田 敦 (第1・3・5)
	神経		岩本 諒			内田 待望
	循環器	見附 保彦	見附 保彦	見附 保彦	見附 保彦	
	外科			大槻 忠良	大槻 忠良	
	整形外科	布谷 信				
	皮膚科		若原 真美*			
	眼科				吉岡 達也*	
	地域ケア		栗田 敦		桐場 千代	
禁煙外来	見附 保彦					

● 受付時間(午前診療)8:40~11:30 ● 黄色枠は予約制 ● \*印は午後診察 ● 休診日/土・日・祝日・年末年始  
 ※皮膚科の診察は、**火曜日の13:00~15:00(受付時間14:30まで)**です。  
 ※最新の医療体制についてはあわら病院ホームページ「診療体制の最新情報」をご覧ください。



行事食のご案内



さくら散らし寿司

いちごゼリー

春の彩りをぎゅっと詰め込んだ献立です。  
 さくら色の散らし寿司と、さっぱりとしたいちごゼリーで、見た目でも味でも春の訪れを感じていただけるように工夫しました。

外来リニューアル



このたび、病院周辺の自然環境をイメージした、明るく落ち着いたデザインへ改装しました。

入口正面の掲示板を整理し、自然光を取り入れることで、より開放感のある空間となっています。内装・家具も明るい色調で統一し、安心してお過ごしいただける環境を整えました。

今後も、患者さんにとって快適で安心できる医療環境づくりに努めてまいります。

独立行政法人

国立病院機構 **あわら病院**

福井県あわら市北潟238-1

TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249

〈地域医療連携室〉 FAX.0776-79-1261

URL <https://awara.hosp.go.jp/>

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(約5km) 乗合タクシー[事前に登録が必要です]  
 ハピラインふくい線「芦原温泉」駅より(約10km) 乗合タクシー[事前に登録が必要です]

※乗合タクシーを利用するためには事前に登録が必要です。

乗合タクシー(デマンド交通)は、お電話1本で、停留所から目的地の近くの停留所まで直接行けるシステムです。

《お問い合わせ先》あわら市役所 生活環境課 生活グループ 0776-73-8017